

2023. 4. 13

報道関係者 各位

< 配信枚数2枚 >

【立命館土曜講座のご案内】

5月テーマ「グローバルな視座から『戦争』を考える」

開催日時：5月13日(土)・20日(土) 10:00~11:30

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

5月の立命館土曜講座は、立命館大学人文科学研究所の企画として「グローバルな視座から『戦争』を考える」をテーマに、オンライン(Zoom ウェビナー)で開講いたします。

どなたでも無料で受講いただけますので、ご関心のある方のご参加をお待ちしております。

記

■立命館土曜講座 5月テーマ「グローバルな視座から『戦争』を考える」

(1)第3381回「ロシア・ウクライナ紛争下における『戦争犯罪』と正義の在り方」

日時：2023年5月13日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学国際関係学部 准教授 越智 萌

(2)第3382回「移動と定住、平時と危機時の連続性を生きる:第二次世界大戦時のラバウルで生きた日本軍兵士の事例から」

日時：2023年5月20日(土) 10:00~11:30

講師：立命館大学グローバル教養学部 准教授 小林 ハッサル 柔子

開催方法：オンライン(Zoom ウェビナー)

内 容：別紙参照

聴 講 料：無料

定 員：400人 ※実施前日12時までに要事前申込。定員に達し次第、受付を終了。

申込方法：立命館土曜講座のWEBサイトよりお申し込みください。

<https://www.ritsumeai.ac.jp/doyo/>

主 催：立命館大学衣笠総合研究機構

そ の 他：文字通訳を配信しています。

以上

本リリースの配布先：京都大学記者クラブ、草津市政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ

●内容についてのお問い合わせ先

立命館大学衣笠総合研究機構 担当:武田・堀

TEL.075-465-8224

別紙

■立命館土曜講座 5月テーマ「グローバルな視座から『戦争』を考える」

(1)第 3381 回「ロシア・ウクライナ紛争下における『戦争犯罪』と正義の在り方」

日時：2023年5月13日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学国際関係学部 准教授 越智 萌

講師による内容紹介：

ロシアによるウクライナへの侵略が継続する中、紛争下で行われたとされる「戦争犯罪」とどのように向き合うかが問題となっています。通常の犯罪と同じように、刑事捜査をし、犯人を捕らえて処罰するのか、それとも戦火の拡大を阻止するため、侵略者に屈し、責任追及をあきらめるのか。「正義 vs 平和」論は、紛争を終わらせることができる指導者が同時に犯罪容疑者でもある、という状況にどのように向き合えばよいのか、を論じてきました。本講義では、ロシア・ウクライナ紛争下における「戦争犯罪」の概念とそれに対処するために発展してきた国際刑事司法体制について概説した後、「正義 vs 平和」の二項対立論を論じた上で、過去と現在の関連事例について紹介し、現代国際秩序を支える価値バランスについて考えます。

(2)第 3382 回「移動と定住、平時と危機時の連続性を生きる:第二次世界大戦時のラバウルで生きた日本軍兵士の事例から」

日時：2023年5月20日(土) 10:00～11:30

講師：立命館大学グローバル教養学部 准教授 小林 ハッサル 柔子

講師による内容紹介：

アジア太平洋戦争後、1945年に日本軍に占領された豪州領ニューギニア(現在のパプア・ニューギニア)に上陸したオーストラリア軍は、日本軍兵士はほとんど死亡しているだろうと予想していた。しかし、その予想に反して、日本からの供給も絶たれたラバウルでは約8万9千人の日本軍兵士が生存しており、オーストラリア軍を驚かせた。日本軍兵士の生存の鍵は、彼らがラバウルで菜園を営み、戦時中の生活を維持したためである。本講演では、ラバウルで生き残った日本兵が経験した戦争による移動(war mobility)と、異国の地にとどまり野菜を作る経験に焦点を当て、アジア太平洋における第二次世界大戦の歴史をどう理解するかについて考察したい。この歴史を分析するために、本講演では、戦争を、緊急時と平時、戦争の移動と非移動(immobility)、国家とグローバルの間の交差点に位置づける。第一に、平時と非常時が連続性を持ちながら、歴史を形成していることを理解する。現在進行中のロシアとウクライナの戦争が示すように、戦争が行われている間にも、他の場所では生活が営まれており、平時と非常時は共存しながら進行する。第二に、兵士をナショナリズムに洗脳された忠実な戦闘員としてではなく、戦争により引き起こされた国際的な移動の主体として位置づけ、戦争の歴史を国民国家の枠組みを超えて理解することを試みる。

■立命館土曜講座

1946年から続く、市民向けの無料公開講座。故・末川博名誉総長の「学問や科学は国民大衆の利益や人権を守るためにある。学問を通して人間をつくるのが大学であり、大衆とともに歩く、大衆とともに考える、大衆とともに学ぶことが重要」との思いのもとに、大学の講義を市民に広く開放し、大学と地域社会との結びつきを強めることを目指しています。

<WEB サイト><https://www.ritsumei.ac.jp/doyo/>